

うらおそい歴史新聞



第60号

戦後七五年企画

「前田高地の戦跡巡り」

戦争体験者も減少し、戦争によってもたらされる悲惨な状況について見聞きする機会が少なく、戦争に対する認識が希薄になりつつあることから、前田高地に残る戦跡をおし戦争の悲惨さを語り伝えていくことを目的とする。

◎日時 令和3年3月14日（日）

受付 8時30分～

出発時間 8時30分

◎集合・解散場所

浦添グスク・ようどれ館

◎参加料 大人・小人ともに（300円）

（保険料・資料代）

◎募集人員 50人

※小学生以下は大人の同伴が必要です

◎申込期間 2月25日（木）～3月11日（木）

※先着順。定員に達し次第締め切り

◎申込先 浦添グスク・ようどれ館

電話 098-874-9345

◎順路

慶良間の見える丘と和光地蔵と浦和の塔と
デイীগガマと浦添グスク展望台と前田高地

平和之碑とワカレジー（為朝岩）と伍詰塚とカンパン塚と山川ガートとクチグワーガマと※都合によりガイドポイントを変更する場合があります。

◎主催 うらおそい歴史ガイド友の会

◎共催 浦添市教育委員会

◎後援 浦添市

浦添、歴史の背骨を歩く I

仲間後原遺跡と浦添グスク

浦添グスクは他の沖縄の遺跡がそうであるように、確たる歴史的な事象を記した文献は皆無に近い。それゆえ歴史へのロマンは限りなく自由に広がるが、ときには後盾のない虚しさも味わうものだ。このバームクーヘンのように重なる地層の中には、歴史を語るどんな遺構や遺物が埋もれているのだろう。人体を診るように、巨大なエコーがないものかとさえ思ってしまう。

浦添グスクの本格的な発掘調査が始まったのは一九八二年、八九年には浦添ようどれとともに国指定史跡となった。以後、発掘調査は浦添丘陵とその周辺でも実施され、当山東原遺跡、当山世利原古墓群、浦添原遺跡、真久原遺跡、伊祖グスク、拝山遺跡など、欠如した歴史と連携するような十三・四世紀からの遺構や遺物が多数出土している。

ここで紹介したいのは、浦添グスク・ようどれ館の地下に眠る「仲間後原遺跡」だ。浦添グスク・ようどれ館の敷地と「安波茶の殿（従来の位置から移動）」や「印部土手」を含む、東西四十メートル、南北二百メートルの細長い平坦地に相当する。遺構や遺物の出土具合から、十二世紀から近世にかけての集落遺跡であり、遺構や遺物の出土具合から、集落が最も活気ある時期は十三世紀半ばから十四世紀とされた。浦添グスク・ようどれ館の駐車場からは、一七〇カ所ほどの柱穴が出土している。ここは一段高い場所になっており居住空間とみてとれ、何度も建物が建て替えられたことが伺えるようだ。建物とは、土台に礎石を用いない掘立柱建物のこと。中国製陶磁器が大量に出土し、炉跡や炭も見つかる。屋外で火を囲む人々の生活が浮かんでくる。問題は、この仲間後原遺跡が浦添グスクとどのように関係しているのか、になる。なしら、浦添グスクから三百メートルほどしか離れていない。

浦添グスクの発掘調査では、その遺構により十三世紀から十八世紀までの期間を設けて五期に分類している。それによると、浦添グスクが本格的な土木造成工事が行われ、大型グスクとして拡張していくのは十四世紀から十五世紀の第二期になる。仲間後原遺跡は、それ以前の浦添グスク草創期ともいえる第一期、つまり「低い野面積石垣と掘立柱建物で構成されており、現在の展望台から通称城門地区と呼ばれる五十メートル四方の狭い範囲にひろがる」とみられている。様相の、浦添グスクの時期に相当する。伝承の城をでないが浦添グスクは舜天が築城したともいわれ、王位に就いた時期は十二世紀後半といわれている。

仲間後原に居を構えた人々は、草創期のグスクと舜天王を支えた人々なのだろうか。

掘立柱建物とはどんなものなのか。二十年に一度建て替えられる伊勢神宮内宮の社殿を思い浮かべてほしい。掘立柱の建物が丘陵台上からその下の平坦な場所に立ち並ぶ、初期の浦添グスク。王族に仕える一族やその家族たち。グスクを取り巻く集落の存在は否定できないはずだ。

最後に、興味深い発掘調査の総括部分を紹介しよう。「仲間後原遺跡の範囲や出土遺物からは他を圧倒するだけの政治的優位性は感じ取れない」。一呼吸おいて、この一文を飲み込んだ。王統を樹立し時代を作り上げるには、カリスマとも呼ぶべき莫大なエネルギーが必要であり、そのエネルギーは時代を経た今でも、当時のエネルギーのまま出現してくるのだろう。それを嗅ぎ分ける力量。浦添グスクの歴史に迫るには、エネルギーを探り続ける沈着な視線が必要なのかもしれない。

（岡島）



○浦添グスク・ようどれ館

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や戦前の写真パネルなどを展示しています。

【開館時間】午前9時～午後5時
【入館料】

大人（高校生以上）100円
小人（小中学生）50円

※市内小・中学生は無料

【休館日】

月曜日（祝日は開館）・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53-1

【電話】098-874-9345

【アクセス】

琉球バス交通 牧港線（55番）
仲間バス停から徒歩5分



【浦添グスク・ようどれ館】

浦添ようどれ墓室（西室）の原寸大の模型がみどころ。館内は、NPO法人うらそい歴史ガイドが展示の解説も担当します。駐車場も完備しています。

○浦添大公園南エントランス展示コーナー

浦添グスクの南側入口にある県営公園の施設です。浦添グスクの模型のほか、グスクを紹介するパネルや出土品のレプリカを展示しています。入場無料です。お気軽にお訪ね下さい。

【開館時間】午前9時～午後5時

【入館料】無料

【休館日】

月曜日（祝日は開館）・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53

【電話】098-876-3555

【アクセス】

琉球バス交通 56系統
浦添小学校前バス停から徒歩5分



【浦添大公園南エントランス展示コーナー】

施設の中には「うらそい歴史ガイド」が解説員としますので、解説をご希望の方は気軽に声をかけてください。駐車場も完備しています（バス対応可）。

○浦添市歴史にふれる館

浦添の遺跡の出土品や民具を収蔵・展示している施設です。展示室では、縄文時代の土器から、戦前まで実際に使われていた道具などを展示しており、浦添の歴史を学ぶことができます。

【開館時間】午前9時30分～午後5時

（入館は16時30分まで）

【入館料】無料

【休館日】土日・祝祭日（慰霊の日）

年末年始

【住所】〒901-2134

沖縄県浦添市港川512-11

【電話】098-876-1234

内線（6216・6217）

文化課文化財係まで

【アクセス】

琉球バス交通 20系統他
第一牧港バス停から徒歩15分



【浦添市歴史にふれる館（やかた）】

平成28年2月にオープンした文化財の収蔵展示施設。収蔵室の一部も公開しています。駐車場も完備しています。



浦添市歴史にふれる館の地図



※仲間バス停から徒歩5分

浦添グスク・ようどれ館と浦添大公園南エントランス展示コーナーの地図

○うらそい歴史ガイド ツアー 随時受付中です！

浦添グスクをはじめとした、市内の史跡や歴史スポットを有料でガイドします。

料金ガイド1名当り（20名まで対応可）
1時間 1,500円 / 2時間 3,000円

団体でのご利用や、コースや時間などは相談にのじます。お気軽にご相談下さい。

申込先 浦添グスク・ようどれ館
電話 098-874-9345